平成18年度　経済産業省委託

国際規格共同開発調査

アジアにおける高齢者・障害者配慮標準化に関する国際規格共同開発事業成果報告書

平成１９年２月

財団法人　共用品推進機構

目　　次

第１章　総論
１．はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
１．１　国際規格共同開発事業の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
１．２　事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
１．３　調査研究の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
１．４　調査体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
１．５　委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第２章　各論
１．アジアにおける高齢者・障害者配慮標準化に関する事業経過・・・・・・・・・・・ 11
１．１　第５回東北亜標準協力セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
１．２　中日・韓日アクセシブルデザイン打合せ会議・・・・・・・・・・・・ 21
１．３　ISO NWIP 及び添付資料（ANNEX）提出・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
１．４　アジア各国への説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
２．新規提案テーマに関する調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
２．１　コミュニケーション支援用絵記号　国際標準化状況に関する調査・・ 31
２．２　点字表示・触知案内図における国際調査・・・・・・・・・・・・・・ 31
２．３　トイレにおける国際調査 31
第３章　18 年度事業まとめと今後の課題
１．18 年度事業成果とりまとめと今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
１．１　委員会のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
１．２　18 年度事業のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
１．３　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
【資料編】
資料編１．New Work Item Proposal　marking tactile dots on consumer products 39
資料編２．New Work Item Proposal　Auditory signals on consumer products 44
資料編３．New Work Item Proposal　Auditory signals on consumer products-Sound pressure levels of signals for the elderly and in noisy conditions 48
資料編４.New Work Item Proposal　Visual signs and diplays- Specification of age-related relative luminance and its use in assessment of light- 52
資料編５.New Work Item Proposal　Packaging and receptacles 56
資料編６.ANNEX 61
資料編７.国際調査　コミュニケーション支援絵記号に関する報告書 63
資料編８.国際調査　点字表示、触知案内図に関する報告書 91
資料編９.国際調査　トイレの操作系設備に関する報告書 121

第１章　総論

第１章　総論

１．　　はじめに

１．１　国際規格共同開発事業の背景

日本から提案し，議長国として作成した ISO（国際標準化機構）/IEC（国際電気標準会議）ガイド 71（高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した規格作成配慮指針）が平成 13 年 11 月に公布され，国際的にも高齢者・障害者配慮の標準化に注目が集まっている。現在，ヨーロッパ圏では，ガイド 71 の積極的な普及が図られている。また，国際的にも平成 14 年 10 月に ISO/TC（専門委員会）159 において，ガイド 71 に基づくセクターガイド作成の検討作業を行うワーキンググループ（WG2）が設置され，TR の作成作業が行なわれている。

しかしながら，日本以外のアジア各国においては，高齢者・障害者配慮標準化への潜在的な関心は高いものの，実質的な標準化の動きは見られなかった。そのため（財）共用品推進機構では，「アジアにおける高齢者・障害者配慮標準化に関する国際規格共同開発委員会」を設置し，平成 15 年度，16 年度それぞれ下記の作業を行なった。

（平成 15 年度）

１）韓国，中国の政府，規格作成機関，包装関係業界に対して，日本及び ISO（国際標準化機構）におけるアクセシブルデザインの標準化に関する説明をし，日中韓共同で規格を作成することの合意を得た。

２）平成 15 年 10 月に北京で行われた「第２回東北アジア標準化セミナー」において日本が幹事国となりアクセシブルデザインの日中韓で規格を共同開発する事を提案し「日中韓アクセシブルデザイン委員会」を発足させ可決された。

３）「日中韓アクセシブルデザイン委員会」の委員には，各国から専門家３名を選出することになり，「アジアにおける高齢者・障害者配慮標準化に関する国際規格共同開発委員会」の委員から３名選出した。

４）中国・韓国に対し，アクセシブルデザインの JIS 規格 14 テーマを紹介すると共に，日本側における優先順位を下記に決め韓国側より合意をされた。

①プリペイドカードの一般通則
②消費者製品の凸記号表示
③包装・容器の設計指針
④消費生活製品の報知音
⑤消費生活製品の報知音　妨害音及び加齢変化を考慮した音圧レベル
⑥視覚表示物，年代別相対輝度の求め方及び光の評価方法

５）中国，韓国の家電，包装関係機関に，アクセシブルデザイン関係に関しての取り組み状況の調査を行った。

（平成 16 年度）

１）データ整備

ISO にアクセシブルデザイン関連の日本工業規格 JIS６種を，3 カ国合意で提案するため各規格におけるデータの整備を行った。

２）新規国際提案テーマの検討

３）アジア各国への調査

アジア包装技術協会に加盟している 14 カ国 16 団体に高齢者・障害者標準化配慮の実態調査を行った。包装関係協会を調査対象としたのは，今回中日韓で合意提案する予定の中に “JISS0021 高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器”が含まれているためである。

４）「第１回中日韓アクセシブルデデザイン委員会」の開催及び報告

「第１回中日韓アクセシブルデデザイン委員会」を，平成 16 年９月８日に中国・北京で開催し，その結果を平成 16 年 12 月 13 日東京で開催された「第３回東北亜標準協力セミナー」において進捗状況並びに今後の計画の報告を行い承認された。

５）委員会の開催

国内に委員会を設置し，調査結果を分析し，国際標準化の必要性のある事項に関しての優先順位を決めた。

平成 16 年度は，平成 16 年 10 月に日本で行われる予定の第３回東北亜標準協力セミナーに向けて，第 1 回の日中韓のアクセシブルデザイン委員会を開催し，アクセシブルデザインに関する６種の JIS を国際規格に提案できる形に仕上げる事となった。また，新規共同テーマに関しても検討を行い韓国，中国に対して説明する準備を整えることとなった。

（平成 17 年度）

１）第２回中日韓アクセシブルデデザイン委員会

2005 年 4 月 29 日，ソウル市 KOTEC ビルで開催された。新 SC の創設を検討している旨を報告し，５件の NWIP の提案先の確認を行った。また、第３回日中韓アクセシブルデザイン委員会，第４回北東亜標準化セミナーのスケジュールを決めた。

２）ISO NWIP 提出準備

NWIP の提案先の検討を行うと共に，提出は３ヶ国連盟で行うこととなった。

３）第４回東北亜標準協力セミナー

「第２回中日韓アクセシブルデザイン委員会」を，平成 17 年４月 29 日に韓国・ソウルで開催し，その結果を 2005 年 11 月 24 日，済州島で開催された「第４回東北亜標準協力セミナー」において進捗状況並びに今後の計画の報告を行い承認された。

４）アジア各国への説明

日本が計画しているアクセシブルデザイン（AD）に係る国際提案及び国際標準化機関（ISO）の TC159(人間工学分野)における新しい分科委員会（SC）を設置する提案について支持を求め，また，新 SC が設置される場合には、積極的参加メンバー（P メンバー）としての参加の要請を行うことを目的に，シンガポール，マレーシア，タイの 3 国の標準化作成機関及び日系企業との意見交換会を行った。

５）新規国際提案テーマの調査

本委員会では平成 17 年度に JIS 化された「コミュニケーション絵記号」及び「点

字表示」に関し，国際的な規格があるか等の調査を行い，いずれも国際的な規格はなく，今後国際的な標準化が必要なテーマであること確認された。

６）委員会

国内に委員会を設置し，５つのテーマの NWIP の作成，中国，韓国との調整への検討を行った。

１．２　平成 18 年度事業内容

平成 18 年度は，「アジアにおける高齢者・障害者標準化に関する国際規格共同委員会」は 4 年目を迎えた。昨年度に引き続き委員会を設置し，下記の作業を行なった。

１）第 5 回東北亜標準協力セミナー

平成 18 年 7 月 11 日、13 日にそれぞれ中国、韓国で開催された。ここでは、NWIP 作成までの経緯、申請の手続きについての説明を行った。

２）中日韓アクセシブルデデザイン委員会

平成 18 年 11 月 13 日、平成 19 年 2 月 12 日に、それぞれ中国、韓国で行われ、NWIP 提出に関する進捗状況を報告した。

３）ISO NWIP 提出

第２回中日韓アクセシブルデザイン委員会で、討議され合意されたアクセシブルデザイン関連規格５種に関し，3 カ国連盟で ISO に申請書を提出した。

当初、TC159 内への新 SC 設立を ISO に提案したが、設立とはならなかった。そのため、TC159 SC4・SC5、TC122 へそれぞれ申請した。

４）アジア各国への説明

ISO へ申請した NWIPs５件について、ISO における承認投票への賛成投票を依頼するとともに、積極的参加メンバー（P メンバー）として専門家の派遣要請を行うことを目的に，マレーシア，タイの２カ国の標準化作成機関との意見交換会を行った。

５）新規国際提案テーマの調査

本委員会では平成 17 年度に JIS 化された「コミュニケーション絵記号」及び「点字表示」に関し，国際的な規格があるか等の調査を行った。調査の結果、いずれも国際的な規格はなく，今後国際的な標準化が必要なテーマであること確認された。

６）委員会

国内に委員会を設置し，５つのテーマの NWIP の作成と提案，中国，韓国との調整への検討を行った。委員会は，図表 1.1 に示すように３回実施した。

図表 1.1　アジアにおける高齢者・障害者標準化に関する国際規格共同委員会

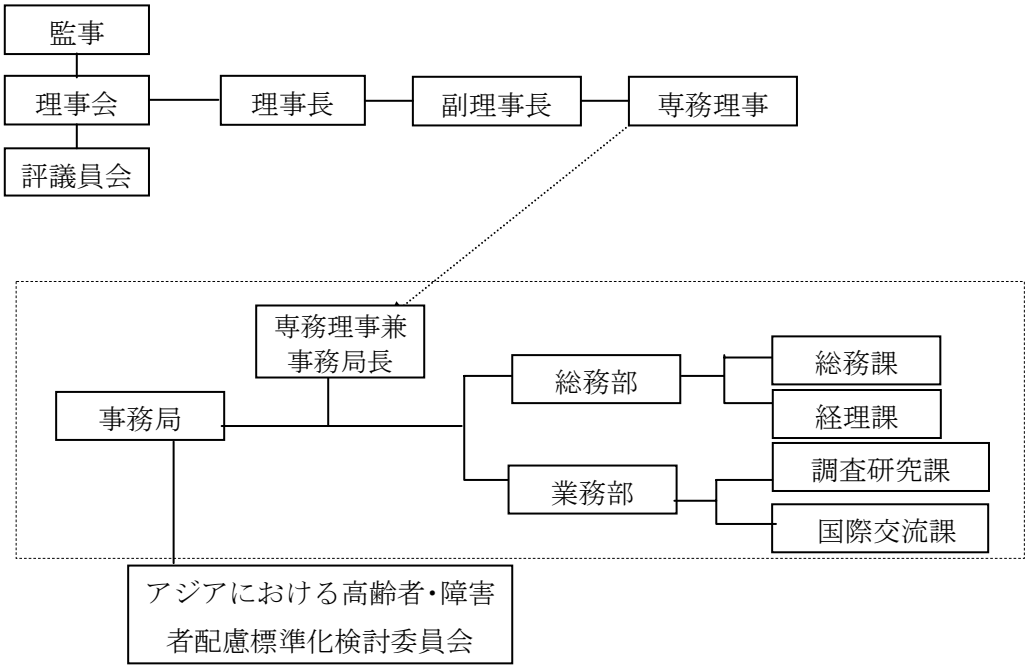
	実施日	主な検討事項
第１回	平成 18 年８月２日（水）	平成 18 年度計画／中国、韓国へ、NWIP５件の ISO での進捗状況報告／ISO への提案方法の検討／新規提案テーマに関する国際調査事項の確認
第２回	平成 18 年 11 月６日（月）	第５回東北亜標準協力セミナー報告／今後の中日韓 AD 委員会テーマ調査／アジア各国への情報提供に関しての検討／
第３回	平成 19 年２月 14 日（水）	コミュニケーション絵記号・点字表示に関する国際調査報告／マレーシア、タイ標準化機関との会合報告

１．３　調査研究の期間

調査研究の期間は，平成 18 年４月３日から平成 19 年２月 28 日である。

実施項目	平成１８年									平成１９年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
①　第 5 回東北亜標準協力ｾﾐﾅｰ		●										
②　中日韓国 AD 委員会								●			●	
③-1　ISO NWIP 提出　TC159								●				
③-2　ISO NWIP 提出　TC122										●		
④アジア各国への説明										●		
⑤新規国際提案テーマの調査					←	—	—	—	—	—	→	
⑥委員会					●			●			●	

１．４　調査体制


監事
理事会
理事長
副理事長
専務理事
評議員会
専務理事兼
事務局長
事務局
総務部
業務部
総務課
経理課
調査研究課
国際交流課
アジアにおける高齢者･障害
者配慮標準化検討委員会

１．５　委員会

国際規格共同開発委員会委員名簿を，図表 1.2 に示す。

図表 1.2　　アジアにおける高齢者・障害者配慮標準化に関する国際規格共同開発委員会名簿

NO	氏　名	区分	所属及び役職
1	佐川　賢	委員長	(独)産業技術総合研究所人間福祉医工学研究部門　ｱｸｾｼﾌﾞﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ研究グループ長
2	青木　和夫	委員	日本大学　大学院教授　TC159 国内委員長
3	岩佐德太郎		交通エコロジー・モビリティ財団　バリアフリー推進部部長
4	倉片　憲治		(独)産業技術総合研究所人間福祉医工学研究部門　ｱｸｾｼﾌﾞﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ研究グループ
5	後藤　義明		積水ハウス(株)ハートフル生活研究所　部長
6	小峰　浩		(財)日本規格協会　国際課　課長
7	児山　啓一		(社)インダストリアルデザイナーズ協会，(株)アイ・デザイン代表
8	酒井　光彦		(社)日本包装技術協会　常務理事
9	田中　徹二		(社福)日本点字図書館　理事長
10	妻屋　明		(社)全国脊髄損傷者連合会　理事長
11	沼尻禎二		(財)家電製品協会　　消費者部　部長
12	藤本　浩志		早稲田大学　人間科学学術院　教授
13	森井　秀司		(財)日本規格協会情報技術標準課研究センター　主任研究員
14	矢野　友三郎		(独)製品評価技術基盤機構　生活・福祉技術センター　標準化センター長
15	山内　繁		早稲田大学　人間科学学術院　特任教授
17	相澤　幸一	関係者	経済産業省　産業技術環境局　標準課環境生活標準課推進室　室長
18	石井　伸治		経済産業省　産業技術環境局　標準課環境生活標準課推進室　課長補佐
19	大下　龍蔵		経済産業省　産業技術環境局　標準課環境生活標準課推進室
20	金子　昇平		経済産業省　商務情報政策局　医療・福祉機器産業室　課長補佐
21	鶴本　昇平		経済産業省　商務情報政策局　医療・福祉機器産業室
22	三分一　恵美		(財)日本規格協会
23	中野　義彦		沖電気工業株式会社　情報通信事業グループ
24	星川　安之	事務局	(財)共用品推進機構　専務理事
25	金丸　淳子		(財)共用品推進機構　事務局
26	森川　美和		(財)共用品推進機構　事務局
27	水野　由紀子		(財)共用品推進機構　事務局

第 2 章　各論

第２章　各論

各論においては,本開発事業が平成 18 年度に行った事項の詳細に関し記述する。本年度は,国内委員会を３回開催し，平成 18 年５月に第 5 回東北亜標準協力セミナーを開き，関連 JIS ５テーマの合意を得，中日・韓日アクセシブルデザイン打合せ会議においてその報告を行った。また，合意を得た５テーマに関しては，中国・韓国と協議しながら NWIP 案の作成を行った。

１．アジアにおける高齢者・障害者配慮標準化に関する事業経過

１．１　第 5 回東北亜標準協力セミナー

「第 5 回東北亜標準協力セミナー」を，平成 18 年 7 月 11 日、13 日にそれぞれ中国、韓国で開催した。ここでは、NWIP 作成までの経緯、申請手続きについての説明を行った。

【中国】

Ⅰ．日　時：2006 年 7 月 11 日（火）午前９：00～午後 12：30

Ⅱ．場　所：中国標準化研究院（ＣＮＩＳ）会議室

Ⅲ．出席者

［中国］

Mr. Wang Ping	中国標準化研究院 Vice Chief Engineer Professor
Mr. Xiao Hui	中国標準化研究院 Associate Chief Engineer
Ms. Yu Xinli	中国標準化研究院 Director Professor　所長
Mr.Zhang Xin	中国標準化研究院　Ｐｈ．Ｄ
Mr. Liu Taijie	中国標準化研究院 Secretariat of China National Mirror Committee of ISO/TC 159
Ms. Ran Linghua	中国標準化研究院
Mr. Wang Heng Yi	中国標準化協会
Ms. Wang Li	中国包装聯合会　Vice General Secretary
Ms.	中国包装聯合会
Mr.張振ｲ翰	通訳

［日本側］

（独）産業技術総合研究所　倉片憲治

（財）共用品推進機構　専務理事　星川安之

Ⅳ．会議内容

（１）本会議の目的の確認（日本）

日本側から冒頭に、今回の会議の目的を下記のように説明し中国側から合意を得た。

①ＮＷＩＰの作成までの詳細経緯の説明

ａ）　日中韓アクセシブルデザイン（以下、AD という）標準化協力の枠組みを活用して、AD に係る５件のＮＷＩＰを、日中韓共同で提出するための協議・調整を行い、当該５件のＮＷＩＰの書式作成はほぼ完了した。

ｂ）中国（ＣＡＳ）、韓国（ＫＳＡ）とは、ＮＷＩＰ作成に係る協議・調整を行ってきたが、当該ＮＷＩＰを提出するための適切なＩＳＯ委員会を設定するため、ＮＷＩＰ作成と並行して、特にここ半年間において、ＪＩＳＣが実施したアクションは、下記２点。

○ＴＣ１５９（人間工学）にＡＤ国際標準化一元化のための『新ＳＣ』の設置提案

○日中韓の協力の枠組みをアジア諸国に拡大するための、東南アジア主要国（マレーシア、タイ、シンガポール）の各標準化機関にＡＤの紹介、及びＡＤ国際標準化活動への参加促進活動

②ＮＷＩＰ提案関連したＩＳＯの公式手続きの確認

また、具体的なアクションプランを検討するため、今回の会議では、KSA 及び CA 関係の他、５件の NWIP を提出する予定のＩＳＯ委員会、TC159（SC4/5）、TC122 の国内対策委員会の関係者を加えて、AD の意義、５件の NWIP の技術的な説明、ＩＳＯにおける国際規格制定の手続きの説明など関連情報の提供を行う。

③今後の作業に関する意見交換

日中韓として 5 件の NWIP を提出する対象 ISO 委員会を特定し、併せて、今後の対象 ISO 委員会での標準化活動（NWIP 投票、WG 活動など）において日中韓が連携して適切に行動するためのアクションプランについて打ち合わせを行う。

中国：ユニバーサルデザイン（ＵＤ）と、アクセシブルデザイン（ＡＤ）の違いは？

日本：ＩＳＯガイド７１の作成の際、ＵＤは、「全ての人に適合」が求められるが、現段階では、非常に困難な製品・サービスが多いため、「より多くの人」という意味で、「アクセシブルデザイン」という表現を使用することになった。

中国：理解した。

（２）ＮＷＩＰ　５テーマの詳細紹介（日本）

日本側から、中国、韓国がＩＳＯに３カ国共同で、ＮＷＩＰを提出することを合意した日本のＡＤ５テーマに関して、確認の意味で、ＪＩＳ制定の経緯と共に内容の紹介を行った。詳細を再度紹介した理由は、今回　中国側から、専門家が出席したためである。

中国：今回の５つのテーマにおける人間データが、欧米から異なる意見がどうするのか？

日本：NWIP が承認された場合、IS を作成する時に、議論することになる。

（３）ＴＣ１５９新ＳＣ提案の結果及びリエゾンオフィサーの作業を説明（日本）

日本側から、５テーマを一つの委員会で検討できる事が必要との見解から、ＴＣ１５９に新ＳＣを設立することを提案したが、既存のＳＣでも作成が可能ではないかとの見解で、設立が否決されたことを報告した。

しかし、ＴＣ１５９WG２プロジェクトリーダー佐川賢氏に対し、ＴＣ１５９内外へのリエゾンオフィサーとなる指令を受けたことを報告した。

中国：リエゾンオフィサーは、日本が中心で行うのか？

日本：日本一カ国では対応しきれない業務であるため，他のメンバー国の参加を呼びかける予定。今年の１０月に、ＴＣ１５９の議長会議があり、詳細はそこで議論される。

中国：リエゾンオフィサーの仕事範囲は？

日本：リエゾンオフィサーもしくは、リエゾングループは、規格を作成するところではなく、さまざまな TC、SC、WG が、AD をとりこみやすくするような作業を行うところ。

（４）５テーマのＮＷＩＰを詳細紹介（日本）

日本側から、５テーマのＮＷＩＰ（案）の書類の紹介を行った。

また、中国がＯメンバーであるＴＣ１５９ＳＣ５に関し、中国から現在、７月末をめどに、Ｐメンバーになる国内手続きを行っているとの報告があった。

中国：提案者の箇所に書かれている中国人の名前は、了解。ただ、中国は、提案者の箇所だけではなく、プロジェクトリーダーの欄に、CO(副)リーダーもしくは、エディターもしくはＣＯエディターの名前を書くことを希望するが、可能か？理由は、中国は上記の立場でないと、政府からの応援（出張費他）を得にくい。

日本：了解した。

（５）５テーマへの日中韓以外への働きかけに関して

５テーマのＮＷＩＰ（案）へ、賛同を促す国を５カ国以上探す必要があることの確認をしたところ、中国は、７月１７日からの週に、ドイツの TC37 のメンバーがくるので、依頼してみるとの回答であった。

ただ、TC３７から TC122、TC１５９のドイツメンバーに話すことになるので、日本側からも欧米に関しての依頼を行う必要がある。

（６）第３回　中日韓アクセシブルデザイン委員会開催に関して

日本側から、第３回の中日韓アクセシブルデザイン委員会を、下記の議題で行うことを提案。

・ＩＳＯ全体へＡＤを展開するためへの意見交換
・新規テーマに関して
・中日韓以外への参加呼びかけ
・５つのテーマの進捗状況の確認

上記に提案に関して、中国側からは、本年１１月中旬に、中国かんなん省で、第５回東亜標準協力セミナーを実施するので、その際に行ってはどうか、また、他の時期であれば、東京で行ってもよいとの意見であった。

第３回会議に関しては、韓国の意見も聞いて、日本から案を提案することになった。

●レジョリューション（案）　　中国―日本

China-Japan meeting at CNIS, Beijing

2006/07/11

Discussion: China-Japan collaborative actions on accessible design

[Q] Which organization in China is responsible for voting in ISO, CAS or SAC?
[A] SAC is. Mr. Zhang (mobile: +86 137 011 50214) will be a corresponding person of China for all five NWIPs.

[Q] Who will be nominated for the expert/project leader for each NWI?
[A] - Tactile dots: Mr. Liu Taijie
- Packaging: Mr. Liu Taijie
- Auditory signals (two proposals): Mr. Zhang Xin
- Age-related luminance: Ms. Ran Linghua

[Q] Is China ready to change the status in TC159/SC5 from an O-member to a P-member?
[A] The action has already been taken domestically and will be approved by the end of July, 2006. China will inform Japan when the ISO CEO approves the change. Japan will submit to ISO the three NWIPs on vision and auditory signals after the approval.

[Q] Does China like to take the role of project co-leader of TC159/SC4/WG9, TC159/SC5/WG4 and TC122/WG (to be established) to work with Japan ("twinning")?
[A] Yes, the Chinese proposer will also take the role of the project co-leader in each NWI.

[Q] Has China been working for standardization in ISO with Malaysia, Singapore, Thailand, Hong-Kong (ITCHKSAR, a correspondent member), or other member bodies?
[A] China will hold a meeting with a German delegation next week and inform the delegates about the NWIPs.

【韓国】

Ⅰ．会議場所：韓国規格協会（KSA）　１８階　会議室

Ⅱ．時間：平成７月１３日（木）午前９時～１４時

Ⅲ．出席者

韓国側

Mr.Man－Han Hwang　韓国標準協会（KSA）　デイレクター

Mr.Kyung-Han LEE　韓国標準協会 産業標準本部　標準計画チームマネージャー

Mr.Deug-Ki KIM　韓国標準協会 産業標準本部 主席調査員

Ｍｓ.Ｙｏｕｎｇ-Suk Lee　Chonnam National Univ　Prof.

Ms.Lee Hyun Ja Korea Research Institute of Standards and Sience(KRISS)

Mr.Inhyuk Moon, DONG-EUI UNIVERSITY PH.D

Mr.Shim,Woo-Joung Korean Association of Products And Services for senior Citizens

李　智英さん　　通訳

日本側

経済産業省環境生活標準化推進室長　相澤幸一

（独）産業技術総合研究所　倉片憲治

（財）共用品推進機構　専務理事　星川安之

Ⅳ会議内容

（１）会議の目的の確認（日本）

日本側から冒頭に、今回の会議の目的を下記のように説明し韓国側から合意を得た。

①ＮＷＩＰの作成までの詳細経緯の説明

ａ）日中韓アクセシブルデザイン（以下、AD という）標準化協力の枠組みを活用して、AD に係る５件のＮＷＩＰを、日中韓共同で提出するための協議・調整を行い、当該５件のＮＷＩＰの書式作成はほぼ完了した。

ｂ）中国（ＣＡＳ）、韓国（ＫＳＡ）とは、ＮＷＩＰ作成に係る協議・調整を行ってきたが、当該ＮＷＩＰを提出するための適切なＩＳＯ委員会を設定するため、ＮＷＩＰ作成と並行して、特にここ半年間において、ＪＩＳＣが実施したアクションは、下記２点。

○ＴＣ１５９（人間工学）にＡＤ国際標準化一元化のための『新ＳＣ』の設置提案

○日中韓の協力の枠組みをアジア諸国に拡大するため、東南アジア主要国（マレーシア、タイ、シンガポール）の各標準化機関にＡＤの紹介、及びＡＤ国際標準化活動への参加促進の活動

②ＮＷＩＰ提案関連したＩＳＯの公式手続きの確認

また、具体的なアクションプランを検討するため、今回の会議では、KSA 及び CA?関係の他、５件の NWIP を提出する予定のＩＳＯ委員会、TC159（SC4/5)、TC122 の国内対策委員会の関係者を加えて、AD の意義、５件の NWIP の技術的な説明、ISO における国際規格制定の手続きの説明など関連情報の提供を行う。

③今後の作業に関する意見交換

日中韓として 5 件の NWIP を提出する対象 ISO 委員会を特定し、併せて、今後の対象 ISO 委員会での標準化活動（NWIP 投票、WG 活動など）において日中韓が連携して適切に行動するためのアクションプランについて打ち合わせを行う。

■政府（KATS）の参加について

韓国：今回は、民間レベルでの打ち合わせのため、KATS は出席していないが、今後は、決定権のある KATS も出席しての会議にすることが望ましい。

日本:ＩＳＯガイド７１の作成の際、ＵＤは、「全ての人に適合」が求められるが、現段階では、非常に困難な製品・サービスが多いため、「より多くの人」という意味で、「アクセシブルデザイン」という表現を使用することになった。

韓国：理解した。

（２）ＮＷＩＰ　５テーマの詳細紹介（日本）

日本側から、中国、韓国がＩＳＯに３カ国共同で、ＮＷＩＰを提出することを合意した日本のＡＤ５テーマに関して、確認の意味で、ＪＩＳ制定の経緯と共に内容の紹介を行った。詳細を再度紹介した理由は、今回　韓国側から、専門家が出席したためである。

■規格作成期間

韓国：１つの JIS を作るのにどれくらいの時間がかかるか？

日本：通常は、３年の研究期間の後に、１年かけて JIS の文章化の作業を行うので、平均４年かかる。

■データの国際性は？

韓国：AD 規格のデータは、体格の異なる人種によって異なってくるのではないか？

日本：日本人以外のデータも広く参考にしている。２００６年８月から、韓国(KRISS)、ドイツの研究機関に協力してもらい、更にデータの蓄積を行っていく計画でいる。

（３）５テーマのＮＷＩＰを詳細紹介（日本）

日本側から、５テーマのＮＷＩＰ（案）の書類の紹介を行った。

■NWIP の提案者及びプロジェクトリーダーに関して

日本：７月１１日の中国との会議で、中国側から NWP の提案者の欄に中国の名前を入れるのではなく、プロジェクトリーダーの欄に、CO(副)リーダーもし

くは、エディターもしくはＣＯエディターの名前を書くことを希望し、日本側としては賛同とコメントしたが、韓国側はどうか？

（理由は、中国は上記の立場でない政府からの応援費等が、出にくいため。）

韓国：他の国が３カ国共同提案で、リーダー、副リーダーが名前を連ねているのをどう見るかを考える必要があるが、基本的には３カ国のうち、実際に提案した国以外が、CO(副)リーダーとして、名前を連ねる事が望ましい。

韓国は、KATS に人事異動があり、提案者の名前が変わる。今週 KATS と打ち合わせ、提案者の部分ははっきりさせる。

プロジェクトリーダーの選出に関しては、旅費等の手配などもあるので、７月いっぱいをめどに、検討し日本側に連絡する。公務員の場合人事異動があるため、民間のメンバーを考えている。

■TC173 との関係

韓国:ガイド７１の KS 化､及び ADJIS の KS 化の作業を行った専門家の立場から、今後は、TC159 だけでなく、TC173 との連携も必要になってくると思われる。

日本：まずは、TC173 の状況を確認する。

（４）５テーマへの日中韓以外への働きかけに関して

５テーマのＮＷＩＰ（案）へ、賛同を促す国を５カ国以上探す必要があることの確認をしたところ、韓国側から、１１月中旬、中国で行われる東亜標準協力セミナーで、日中韓以外の国に対して、働きかけのセミナーを行ってはどうか？の提案が出た。

上記に関しては、再度状況を確認することとなった。

（４）第３回　中日韓アクセシブルデザイン委員会開催に関して

日本側から、第３回の中日韓アクセシブルデザイン委員会を、下記の議題で行うことを提案。

・ＩＳＯ全体へＡＤを展開するためへの意見交換
・新規テーマに関して
・中日韓以外への参加呼びかけ
・５つのテーマの進捗状況の確認

上記に提案に関して、韓国側からは、本年１１月中旬に、中国かんなん省で、第５回東亜標準協力セミナーを実施するので、その際に行ってはどうか、また、他の時期であれば、再度検討のとのコメントであった。また、メールで行えることは、メールで行いたいとの意見も韓国側からあった。

第３回会議に関しては､韓国の意見も聞いて､日本から案を提案することになった。

●レジョリューション（案）　　韓国―日本

Korea-Japan meeting at KSA, Seoul

2006/07/13

Discussion: Korea-Japan collaborative actions on accessible design

[Q] NWIP の提案者の名前は、今記載の方でよいか？

[A] 今、NWIP の提案者に、記載されている KATS の担当者が、人事異動になったため、今週中に KATS と KSA とで話し合い、７月中に日本に対して返事を行う。

[Q] 韓国は TC159/SC4/WG9, TC159/SC5/WG4、TC122/WG のプロジェクトリーダー、副リーダー、エディター、副エディターになることを望むか？

[A 基本的に、３カ国の内、主提案国以外の２カ国は、副リーダー、副エディターになることが良いと思う。これも、今週中に KATS と KSA とで話し合い、７月中に日本に対して返事を行う。

[Q] アジアの他の国々へ NWIP への賛成、参加への、働きかけに対して、韓国は同考えるか？

[A]２００６年１１月中旬に、中国で行う第５回東亜標準協力セミナーの時期に、他国を招いて説明し、賛同を求める案はどうか、３カ国で検討してみたい。

ＮＷＩＰに関しての中国・韓国　合意事項■・要確認事項▲

NO	JIS 番号	題名	NWIP 提出先	NWIP 提出時期	NWIP 書類	連絡担当者
1	JISS0011	凸記号表示	■ TC159SC4WG9	▲韓国:Ｐリーダ表記の確認後	■中国：P リーダ欄に中国メンバー記載 Mr. Liu Taijie ▲韓国：P リーダ欄への記載メンバー韓国内で検討	中国： Mr. Zhang Xin (CNIS) 韓国： Mr.Deug-Ki KIM (KSA) 日本：日本規格協会　三分一 共用品推進機構　星川
2	JISS0013	報知音	■ TC159SC５	▲韓国:Ｐリーダ表記の確認後 ▲中国:Ｐメンバ登録後	■中国：P リーダ欄に中国ﾒﾝﾊﾞｰ記載 Mr. Zhang Xin ▲韓国：P リーダ欄への記載メンバー韓国内で検討	中国： Mr. Zhang Xin (CNIS) 韓国： Mr.Deug-Ki KIM (KSA) 日本：日本規格協会　三分一 共用品推進機構　星川
3	JISS0014	報知音ー音圧レベル	■ TC159SC５	▲韓国:Ｐリーダ表記の確認後 ▲中国:Ｐメンバ登録後	■中国：P リーダ欄に中国ﾒﾝﾊﾞｰ記載 Mr. Zhang Xin ▲韓国：P リーダ欄への記載メンバー韓国内で検討	中国:Mr. Zhang Xin (CNIS) 韓国：Mr.Deug-Ki KIM (KSA) 日本：日本規格協会　三分一 共用品推進機構　星川
4	JISS0021	包装・容器	■ TC122	▲韓国:Ｐリーダ表記の確認後 ▲日本：TC122 との調整	■中国：P リーダ欄に中国ﾒﾝﾊﾞｰ記載 Mr. Liu Taijie ▲韓国：P リーダ欄への記載メンバー韓国内で検討	中国:Mr. Zhang Xin (CNIS) 韓国：Mr.Deug-Ki KIM (KSA) 日本：日本規格協会　三分一 共用品推進機構　星川
5	JISS0031	視覚表示物	■ TC159SC５	▲韓国:Ｐリーダ表記の確認後 ▲中国:Ｐメンバ登録後	■中国：P リーダ欄に中国ﾒﾝﾊﾞｰ記載 Ms. Ran Linghua ▲韓国：P リーダ欄への記載メンバー韓国内で検討	中国:Mr. Zhang Xin (CNIS) 韓国：Mr.Deug-Ki KIM (KSA) 日本：日本規格協会　三分一 共用品推進機構　星川

【今後の見通し】

１．NWIP５種に関して

・今回、基本的合意を　中国・韓国ともに、合意、確認を得ることができた。

・個別の課題としては、

①中国：TC159SC5 の０メンバーからＰメンバーへの変更作業。（７月末）

②韓国：提案者、プロジェクトメンバー名の確定（７月末）

③日本：ＴＣ１２２の進捗状況を確認し、ＴＣ１２２へのＮＷＩＰのスケジュールの確認

上記①②のスケジュールが、７月末なので、可能であれば日本の課題である③も可能な限り、早くすすめることが望ましい。

国内においては、下記の課題を７月末を目処に検討することが必要である。

④包装容器と、凸記号のプロジェクトリーダーの正式選出。

⑤５テーマに関するプロジェクトリーダー以外の専門家の選出

⑥中国、韓国の課題の返答確認

⑦上記、①～⑥までの確認後、それぞれＮＷＩＰの提出

⑧マレーシア、タイ、ＣＥＮ（？）等への参加呼びかけ

⑨第５回東亜標準協力セミナー（１１月中旬　中国）でのセミナーの実施有無の検討

２．第４回　中日韓アクセシブルデザイン委員会に向けて

・今回の会合で中国、韓国から意見を聞いた　「中日韓アクセシブルデザイン委員会」に関しては、日本として下記の準備が必要であることが確認された、

① 日本国内でのＡＤの未来予想図の作成

② 上記①を元に、ＩＳＯにおけるＡＤの未来予想図の作成

③ 上記、①②を元に、「中日韓アクセシブルデザイン委員会」で行う、作業の範囲の確認

④ ３カ国以外の国へ拡大する可能性・メリット等の確認

⑤ ＮＷＩＰ５テーマも含め、中日韓で提出するテーマへフォローアップ作業の必要有無の確認

⑥ 「中日韓アクセシブルデザイン委員会」の会議方法の確認（メールで済ませることと、会合を開く時の区別等）

１．２　中日・韓日アクセシブルデザイン打合せ会議

平成 18 年 11 月 13 日、平成 19 年 2 月 12 日に、それぞれ中国、韓国で行われた中日・韓日アクセシブルデザイン打ち合わせ会議では、ISO への中日韓共同提案に関する進捗状況を報告した。今回は、ＩＳＯにおいて AD が今後どのような位置づけとなるか、また、中日韓で ISO への共同提案を行うことのメリット、ＮＷＩＰ５テーマも含め、中日韓で提出するテーマへフォローアップ作業の必要有無の確認も行い、ISO への共同提案への提案の意義を確認した。さらに、今後は3カ国でADの普及等に関して、シンポジウム等を行い一般消費者や企業に対しても AD の普及を働きかけていくことの重要性を認知した。

１．３　ISO NWIP 提出及び添付資料（ANNEX）提出

昨年度から中日韓アクセシブルデザイン委員会で討議され、合意されたアクセシブルデザイン関連規格５種について、日本（JISC)、韓国（KATS）及び中国（SAC）と共同で提出を行った。提出先は以下の通りである。NWIP 提案後は ISO 内でそれぞれの投票期日まで投票が行われ、該当するＴＣ／ＳＣのＰメンバーの過半数の賛成と最低５ヶ国からＷＧに専門家を派遣することの表明があった場合に、ＮＷＩＰは承認されるのがＩＳＯの承認基準(criteria)となっている。

◆TC159　SC４　投票期日：平成 19 年 4 月 8 日

①高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の凸記号表示（JIS S0011）

電子機器、情報通信機器、OA 機器等の操作スイッチの電源「ON」側や、テンキーの「５」などに凸記号を入れ、視覚障害者等の利便性の向上を図る。凸記号の位置、形状寸法等を規定。

◆TC159　SC５　投票期日：平成 19 年 4 月 9 日

②高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音（JIS S0013）

生活家電製品（洗濯機、炊飯器、エアコン等）の状態などを知らせるための報知音について、報知音のパターンと推奨周波数帯について規定。

③高齢者･障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音－妨害音及び聴覚の加齢変化を考慮した音圧レベル（JIS S0014）

生活家電製品（洗濯機、炊飯器、エアコン等）の状態などを知らせるための報知音について、高齢者の聴覚低下及び環境音を考慮した音圧レベルについて規定。

④高齢者･障害者配慮設計指針－視覚標示物－年代別相対輝度の求め方及び光の評価方法（JIS S0031）

高齢化に伴って波長の短い青が見にくくなること、現状の標識、看板、案内表示などに高齢者に見にくいものが存在していること、このような視覚表示物の見やすさを定量的に評価する方法について規定。

◆TC122　投票期日：平成 19 年 5 月 1 日

⑤高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器（JIS S0021）

消費生活製品の包装・容器について、使用時における識別性、使用性の向上を図るため、包装・容器表面の形状等を規定。容器もしくは蓋にギザギザを入れる、紙パック容器の上端に切り欠きを入れること等。

１．４　アジア各国への説明

正式に ISO TC159 へ申請したＮＷＩＰの承認投票および、承認後の専門家派遣等について、マレーシア、バンコクの標準化機関へ積極的参加メンバー（P メンバー）としての参加の要請を行った。

アクセシブルデザイン国際共同提案に関する東南アジア主要国（マレーシア、タイ）標準化機関及び当該国関連国内対策委員会議長他との意見交換の結果について

２００７年2月２２日

ＭＥＴＩ環境生活標準化推進室　相澤　幸一
(独)産業技術総合研究所　倉片　憲治
（財）共用品推進機構　金丸　淳子

Ｉ．目　的

- アクセシブルデザイン（以下、「ＡＤ」という。）標準化は、ＩＳＯ／ＩＥＣガイド７１（高齢者・障害者を配慮した規格作成のためのガイド）に基づき、現在までに２７件のＪＩＳを制定。
- ＡＤ日中韓標準化専門家会合によって、５件のＪＩＳを基本として国際規格案として共同提案（ＮＷＩＰ）することを決定。共同提案は２００６年１１月に JISC が日中韓を代表して TC159 及び TC122 に提出。
- ２００６年２月に東南アジア主要国（シンガポール、マレーシア、タイ）の標準化機関（ＳＰＲＩＮＧ、ＤＳＭ、ＴＩＳＩ）を訪問し、AD 標準化の意義及び体型、文化の近似したアジア諸国の連携による国際標準の推進について意見交換を行い、基本的な理解が得られた。

（備考）　該当する ISO 委員会について、当時は TC159 に新しい SC を設置する提案を行う予定であった。当該提案は２００６年４月のＴＣ１５９総会において審議されたが否決された。したがって、提案の提出先として適切な既存の委員会を選択することとなった。

- NP 提案５件の３ヶ月投票が開始されたことに伴い、日中韓に加え、アジア圏の支持及び国際標準化作業に参加を促すため、ＴＣ１５９及びＴＣ１２２にＰメンバーとして参加しているＤＳＭ（マレーシア）及びＴＩＳＩ（タイ）を再度訪問し、併せて、それぞれ

の国のＴＣ１５９及びＴＣ１２２ミラーコミッティ（国内対策委員会）の議長等幹部の参加を得て、５件のＮＷＩＰに対する具体的な意見交換を行い、マレーシア及びタイを含めたＡＤ国際標準化に向けたアジア連携を構築することが今回の訪問の目的。

Ⅱ．期　間

２００７年1月２１日（日）～２５日（木）

Ⅲ．出張者

倉片　憲治　（独）産業技術総合研究所　ｱｸｾｼﾌﾞﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ研究グループ　主任研究員

金丸　淳子　（財）共用品推進機構　調査研究課　課長

相澤　幸一　経済産業省　環境生活標準化推進室　室長

Ⅳ．提供した情報

ａ）アクセシブルデザイン（ＡＤ）の意義及び事例等を紹介

－ＡＤとは何か、その必要性について

－ＡＤの事例とその具体的な効果について

ｂ）日本におけるＡＤ標準化の現状、日中韓共同国際提案の経緯、今後の対応方法

－高齢化社会を踏まえたＡＤ標準化の現状

－日中韓共同提案を通じたＡＤの国際標準化の推進について

－ＡＤの国際標準化のアジア連携について

－今後の対応

ｃ）日本におけるＡＤに関連した研究開発及び標準化について

－今回提案する５件のＮＷＩＰの具体的な技術内容について

Ⅴ．結果の概要

【マレーシア標準局（DSM）への訪問】

１．日　時：２００７年1月２２日（月曜日）１４：３０～１７：３０

２．場　所：ＤＳＭ（マレーシア／プトラジャヤ）会議室

３．出席者：＜マレーシア側＞

【ＤＳＭ】

Mr. Noradniazman Abd. Aziz

Mr. Wan Izani Wan Mohd Zain

Mr. Azrin Izani Wan Mohd Zain

Mr. Shaharul Sadri Alwi

【SIRIM】

Ms. Nor Hashimah Ismail

Ms. Azlina Abd. Latif（TC122 マレーシア側Ｃ／Ｐ）

Ms. Maziah（TC159 マレーシア側Ｃ／Ｐ）

【TC159／TC122 マレーシア国内委員会】

Mr. Hj. Md. Dan Hj. Md. Palil（Kebangsaan 工科大学 教授）

Ms. Evelyn Guat-Lin Tan（Sains 大学 建築都市計画校 教授
TC159 国内対策委員会長）

４．概　要：

マレーシア国家標準化機関ＤＳＭ、規格開発を担当しているＳＩＲＩＭの関係者、ＴＣ１５９マレーシア国内対策委員会長、ＴＣ１２２国内対策委員会関係者に対して、ＡＤ及びＡＤを配慮した製品の意義、並びにその標準化の推進について紹介、また、これまで日中韓共同による５件の国際共同提案の経緯、その技術的な内容の説明、共同提案が３ヶ月間のＮＰ承認投票に入ったことから、ＮＰ提案への支持及び積極的な参加を要請した。

なお、質疑応答及び意見交換の概要は以下。

（マ側）　ＮＰ提案（報知音）には、報知音の音量を調節できるように規定されているか？

（当方）　実際に音量の調節ができる製品もある。しかし、メーカーには製品を安く作るために一つの音量に固定したいというニーズもある。メーカーはどの範囲で音量が変えられれば十分なのかを把握したいと考えるので、その目的でこのＮＰ提案（報知音）は活用できる。

（マ側）　報知音の音量の基準は何デシベルと具体的に規定するより、周囲の騒音も考えて規定したほうがよいのではないか。報知音の音量の規定に幅を持たせた方が良いと思うが。

（当方）　ＮＰ提案（報知音）では、ご指摘のように報知音の音量を変更して決められるようになっている。必要な音量は周囲の音によって異なるので、プラス何デシベルと決めている。

（マ側）　その国の文化の違いで報知音（の必要とされる音量）は異なるのではないか。日本で十分でも、マレーシアでは十分ではないといったことはないか。

（当方）　その国によって十分とされる報知音（の音量）は異なるかもしれない。ＮＰ提案（報知音）では、（報知音の音量の）上限と下限の範囲を定めているので、その範囲に入ればよい。この範囲（下限）は聴覚の特性で決まってくるものであり、文化の影響は考えなくて良いと考える。

（マ側）　ＮＰ提案（包装容器）について、シャンプー以外の他の商品（例えば、漂白剤とその他、有害なものの仕分け）にも識別方法（ギザギザなど）を取り入れると便利ではないか。

（当方）　マレーシアから提案があれば、ＮＰ提案（包装容器）をぜひ取り入れたいので、提案してほしい。（国際標準化活動に参加してとの趣旨）

（マ側）　AD は総ての製品に取り入れられるものか。

（当方）　AD の規格は基本的な考え方を例示によって示しているもの。その原則を外れない限り、あらゆる製品で使うことができる。

（マ側）　メーカーが総ての商品にＡＤを取り入れれば、障害者の他一般の人々にも便利になるものと考える。なお、AD を配慮した製品と配慮しない製品との価格差はどの程度

あるか。

（当方）　ＡＤを考慮すれば、そうでない製品との価格差は生じるかもしれない。しかし、AD を、製品を設計してしまった後に設計変更して取り入れるより、製品設計の当初から取り入れれば、ＡＤを考慮することによる価格上昇は低く抑えられると思う。また、AD 製品は障害者専用の製品より市場が高齢者や健常者にも拡大されるので結果として安く製造できると考える。

（マ側）　クレジットカードの識別はＡＤとして重要と思うが具体的なよい方法があるか？

（当方）　クレジットカードの識別方法ではないが、ＪＩＳ（Ｘ６３１０）では、プリペイドカードの識別の方法を「切り欠き」によって行う例示を示している。

（マ側）　それはよい識別方法。　（備考：日本側から JIS を参考送付するか）

（マ側）　NP 提案（包装容器）について、シャンプーのギザギザではその目盛り幅は 1 回の使用量となにか関係があるか。

（当方）　使用量のメモリではなく、ギザギザは容器の内容の識別のためであるが、かつて日本の企業でもすべり止めだと勘違いした会社もある。

（当方）　（まとめとして）　AD の国際標準化については、アジアで連携して進めたい。５件の NP 提案については中国、韓国と日本で連携をしているが、マレーシアはアジアで協力する上で重要な国。せひ、趣旨をご理解の上、提案を支持していただきたい。

なお、TC159/SC5（人間工学的物理環境）の総会が２００７年 10 月にバンコクで開催を予定と聞いている。バンコクはマレーシアからも近いので参加しやすいと思う。ぜひエキスパートを出してくれるよう検討してほしい。

韓国では 5 件の NP 提案について国内規格にしている。アジア連携で国際規格への場に参加して一緒に規格開発をしていきたい。

AD は既存の製品に付加する技術。その普及は日本でも始まったばかり。AD の標準化を行って市場に普及すれば、その分野の産業を振興することが期待できる。

（マ側）　マレーシアとしては提案にサポートする（賛成する）貢献はできると考える。しかし、ミラー委員会で検討し結論を出したい。

（当方）　専門家がいるかどうかが課題であると認識している。難しい課題と認識するがぜひエキスパートを推薦してほしい。日本も同じであるがエキスパートを派遣するにはコスト面で課題がある。そのため、JISC は WG5 のコンビナー、TC122 の幹事国を引き受けているので、アジアから参加しやすいようにマレーシアを含めアジア圏での委員会の開催を考えていきたい。なお、この場での具体的な回答は難しいと理解しているので、今後の連絡のために双方で連絡窓口担当者（コンタクトパーソン）を決めさせて頂きたい。

【コンタクトパーソン】

日本側：TC159/SC4＆SC5　倉片（AIST）

TC122　水野由紀子（共用品推進機構）

マレーシア側：TC159　Ms. Maziah（SIRIM）

TC122　Ms. Azrin (SIRIM)

（マ側）　２００７年２月にTC159ミラー委員会が開かれるので、そのときに本件について検討を行うことになる。

（当方）　今後、コンタクトパーソンを通じて密に連携していきたいと考える。

【タイ工業省工業標準局への訪問】

１．日　時：２００７年1月２４日（水曜日）１３：３０～１７：００

２．場　所：ＴＩＳＩ会議室

３．出席者：＜タイ側＞

【TISI】

Mr. Panu Chompupong　(TC159ミラー委員会幹事)

Mr. Prajak Ruttanasirimaneevate　(TC122ミラー委員会幹事)

Ms. Sirorat Dornlabkham

Ms. Nopporn Klum-em

Ms. Thitima Hoonsuwan

【TC159国内対策委員会】

Ph.D. Suebasak Nanthavanij　(Thammasat大学教授：人間工学) 委員長

４．概　要：

タイ国家標準化機関TISI関係者、ＴＣ１５９タイ国内対策委員会長、TC159、ＴＣ122ミラー委員会幹事に対して、ＡＤ及びＡＤを配慮した製品の意義、並びにその標準化の推進について紹介。また、これまで日中韓共同による５件の国際共同提案の経緯、その技術的な内容の説明、共同提案が３ヶ月間のＮＰ承認投票に入ったことから、ＮＰ提案への支持及び積極的な参加を要請した。

なお、質疑応答及び意見交換の概要は以下。

（タイ側）　NP提案（包装容器）について、例えばオレンジジュース容器には牛乳と異なる切り欠きを例示しているということか。また、牛乳パックの場合、(日本で) すべての企業で容器に切り欠きを導入しているのか。

（当方）　JIS（Ｓ００２１）の採用は強制ではないが、日本では牛乳パックの切り欠きついてはほぼ１００％のメーカーが導入している。また、NP提案（包装容器）では、牛乳は切り欠き一つ、オレンジジュースの場合は二つと例示されている。

牛乳メーカー各社は、牛乳パックに統一して切り欠きをつけようと業界として合意して、現在は１００％採用している。しかし、ジュースの場合はその種類もメーカーの数も多くまだ統一的な採用はされていない。また、NP提案（包装容器）で規定しているのは「切り欠きによる触覚識別」であり、切り欠きの形状、個数については例示するにとどまっている。

（タイ側）　日本以外の他の国では牛乳パックはその材質、形状など JIS の規定と異なる（例えばボトルを使用しているなど）ので採用できないことがあるのではないか。

（当方）　国際規格にするには各国の容器の材料、形状も考慮した上で、NP 提案（包装容器）に例示を追加していく必要があると考えている。

（タイ側）　日本側の説明を聞いて、（AD のステークホルダとして）視覚障害者、聴覚障害者、車いす利用者、高齢者の４つのグループにわかれているが、どのグループが AD の需要が高いのか。

（当方）　世界的に高齢者の人口比率が非常に高くなっている。障害とは言い切れないが、高齢者の場合は見えにくくなったり、聞こえにくくなったりするため、AD は高齢者の需要が非常に高いと考えている。

（タイ側）　日本側から説明のあった AD の市場売り上げ額のデータは、日本市場のデータか、それとも世界市場のデータか。

（当方）　売り上げ額は日本のデータ。

（タイ側）　ＮＩ提案（消費製品の凸点）の規格は、日本以外の他の国でも採用されているか。

（当方）　凸点に関する規格は、いまのところ日本と韓国にしかないようである。韓国は、この JIS とまったく同じものを韓国規格（ＫＳ）として採用している。一方、中国はＮＰ提案（消費製品の凸点）を提案し国際規格として出来上がったものを自国の規格（ＧＢ）に採用したいといっている。今回のＮＰ提案（消費製品の凸点）は JIS を基礎として行うが、国際規格になれば内容の変更もありうる。

凸点の普及に関しては、日本の家電製品協会がその採用促進に尽力し、現在は多くの家電製品メーカーで採用されている。しかし、本当の普及はこれからで、まだまだ普及には時間がかかる。（ノキアの携帯電話を例とし説明。）通常の製品に付加する技術が AD なので、普及がこれからのこのタイミングで国際規格を定めて普及するのが重要だと考えている。

（タイ側）　ＮＰ提案（消費製品の凸点）について、スタートボタンとストップボタンが凸点と凸バーになっているが、点字を使わないのはなぜか。

（当方）　視覚障害者全員が点字を読めるわけではない。また、点字を付ける場所がない製品もあるし、点字はその国によって異なった表記をする。したがって、誰にでもわかるドットとバーをつける方がわかりやすいとした。

（タイ側）　ＮＩ提案（包装容器）について、TC122 への NWIP 書類に文書番号（Ｎ番号）がないのはどうしてか。

（当方）　（２００７年１月２４日段階で）　まだＮＰ提案（包装容器）の承認投票が開始されていないためである。1 月中には開始される予定。（実際は、ＮＰ承認投票は２月１日開始された）

（タイ側）　ＮＰ提案（消費製品の凸点）について更に意見を言えば、若い人が見慣れていること、見てわかるもの、例えばスタートボタンを四角の緑にするなど、新しくド

ットやバーをボタンに採用する方法より、そのほうが適当ではないか。

（当方）　ＮＰ提案（消費製品の凸点）が国際規格として採用されれば、製品への導入が進み、人々は若いうちから凸点の存在を知ることになる。また、現在、凸点はパソコンのキーボードについているので、若い人はそれを頼りにキーボードを使っていると思う。

本件についてはまだ普及が始まったばかりなので、今後両国で協力して広めていきたい。

（タイ側）　ＡＤに関するＪＩＳが多く制定されているが、それを採用したために使いやすくなったという効果はどうやってわかるか。例えば、危険表示の規格（ISO 11683）は採用後の効果がわからない。

（当方）　単に規格を作るだけではなく、ユーザーや企業に説明会を開く必要がある。２００６年２月にタイを訪問した際に、JETRO を通じて日系企業にＡＤの説明会を行った。AD に関しては非常に理解してくれたが、これらの規格に関する情報が伝わっていないことを指摘された。まずは、ＡＤについて認知してもらうことが大事だと考える。（説明資料の 10 ページの）JIS S 0026（公共トイレの操作部）は 2006 年 3 月制定予定のＡＤのＪＩＳで、公共のトイレにおいて水を流すボタン、紙巻器、非常呼出しボタンの配置を定めたもの。これは障害者に対する不便さ調査を行って、視覚障害者が公共トイレを使用する場合、操作ボタンの位置がわからないことが判明しＪＩＳ制定に至った。これを NHK テレビで報道したら、多くの自治体などから問い合わせがあった。日本中の自治体でこの規格を採用しようとする動きがある。AD の意義目的を広報することで普及していくと考える。

（当方）　TC159／SC５（人間工学的物理環境）の総会が本年（2007 年）10 月にバンコクで開催予定と聞いたが、TISI が受け入れるのか？（総会は 10 月 26 日，WG5 会議は 10 月 22-23 日に開催の予定。）

（タイ側）　TISI が受け入れることになっている。SC5 の幹事、議長も参加予定。

（当方）　今回の５件のＮＰ提案のうち３件のＮＰ提案（報知音２件＋視覚標示物）もその際にＷＧ５で審議できると思うので、ぜひ専門家を派遣してほしい。

タイとしてＷＧ５への参加を検討してもらえるか？

（タイ側）　ＴＣ１５９国内対策委員会で検討する。私の感触では協力できるのではないかと考える。日本とタイは協力していく必要がある。

（当方）　タイはＴＣ１５９／SC4（人間とシステムとのインタラクション）の０メンバーであるが、P メンバーに変更することができないか。

（タイ側）　タイは、以前は SC4 の P メンバーだった。0 メンバーになったのは予算と専門家がいなかったから。P メンバーにもどるのはタイの準備ができれば検討していきたい。

（当方）　派遣する専門家の人選と予算のことは日本でも課題。なお、TC１２２は日本が幹事国を引き受けることが出来た。SC５/WG５は日本がコンビナーになったので、タイ

を含めたアジアから参加しやすいよう協力できると思う。

（タイ側）　タイとしてメリットがあれば参加したい。

（当方）　専門家の派遣についてはタイ側で十分に検討していただければ思う。今後、日本とタイの情報を密にしたい。そこで両国の連絡担当者（コンタクトパーソン）を決めたいがいかがか。

【コンタクトパーソン】

タイ側：TC159 パヌ氏（ＴＩＳＩ　TC159 国内対策委員会幹事)、

TC122 パジャク氏（ＴＩＳＩ　TC122 国内対策委員会幹事）

日本側：TC159/SC4&SC5 倉片（ＡＩＳＴ）

TC122　水野（共用品推進機構）

（当方）　TC159／SC５に関しては、５件の NP 提案のうち 3 件について承認投票が開始されている。投票の情報は TISI に入っているか。

（タイ側）　E メールで連絡を受けている。

（当方）　TC122 に関しても近いうちに投票が始まる。(TC122 は２月１日から投票開始）５件の NP 提案についてタイとして前向きな回答を期待。また、日本の AD 関係 JIS は 30 件ほどある。関心事項を問い合わせいただければ詳細な情報をお伝えしたい。

（タイ側）　NP 投票などについて質問があれば連絡する。

Ⅵ. 結果のまとめ

（１）今回は AD の NP 提案に関する２回目の訪問であり、マレーシア及びタイの国内対策委員会長の参加を得て具体的な意見交換ができた。ＡＤの標準化の趣旨、技術的な内容、国際標準化の意義などについて一定の理解は得られたと考える。なお、専門家派遣を決定するためには、具体的な専門家の選定及び派遣に係る経費の支出などの課題クリアが前提であることは言うまでもないが、マレーシア及びタイにおける国内対策委員会委員長は専門家を派遣できるよう国内関係者に働きかけることとなった。

（２）今後は、ＮＰ承認投票についてその期限が４月９日（報知音２件、視覚表示物１件)、４月８日（消費製品の凸点１件）又は５月１日（包装容器１件）であるので、コンタクトパーソンを通じて連絡を取り合い、状況を確認することとした。

（３）アジア連携として、中国（ＳＡＣ)、韓国（ＫＡＴＳ）に加え、マレーシア（ＤＳＭ)、タイ（ＴＩＳＩ）の協力を得て、また、ＴＣ１５９の主要メンバーである欧州（ドイツなど)、ＴＣ１２２の主要メンバーである米国、ＴＣ１５９（ＳＣ４、ＳＣ５)、１２２の幹事等については、それぞれの総会などの場を活用して事前に内容を説明し、おおむね好意的な状況を確認しているところ、今回の５件のＮＰについては承認されると期待される。

（４）　また、タイ（ＴＩＳＩ）との意見交換において、ＴＣ１５９国内対策委員会委員長から、２００７年１０月に第８回パンパシフィック労働環境の人間工学会議がバンコクで開催され、同時に ISO/TC159/SC5 会議を誘致している、との情報を得た。同委員会長は当該会議の実行委員長を兼ねており、今回のＴＣ１５９に提出したアクセシブルデザイン国

際標準化ＮＰ提案などについて当該会議のテーマのひとつとすることが可能との話であった。（テーマ募集は３月１５日まで）　ＡＤの国際標準化は緒についたばかりであり、ＡＤの普及促進の観点から、また、日本側からタイ側にＮＰ提案に係る協力を求めている立場から、本件については当該会議にテーマ提案する方向で国内関係者の調整をしたい。

２．新規テーマに関する調査

新規テーマの候補として、本委員会では、国際的にも有用であると思われる JIS のうち、平成 17 年度に JIS 化された「コミュニケーション絵記号」、「点字表示」及び平成 18 年度中に JIS 化予定の「触知案内図」、「トイレの操作系設備」を挙げ、国際的にどのように普及しているか、調査を行った。

２．１　海外における公共トイレ便房内操作系設備標準化の状況

まずは日本国内で公共トイレ便房内操作系設備に関する JIS を普及させ日本での実績を作った後、国際提案を行うことが適切であると考えられる。

２．２　点字表示、触知案内図の海外調査

平成 18 年 12 月に国連での障害者権利条約が採択されたことにより、障害者の生活の利便性向上のため、各国の点字表示や触知案内図の設置も整備されていくと思われる。そこで、国際標準化に向けては、各国の点字寸法の統一や浮き出し文字規定を作成することなどが課題となることがわかった。

２．３　コミュニケーション支援用絵記号　国際標準化状況に関する調査

今回の海外調査結果より、専門的な場所で必要とされるものを深く追求している様子や、アジアへの発展の可能性も読み取れる。今後は聴覚障害、言語障害、外国人等への意見収集と理解度調査を行い、国内での普及や広報にも力を入れる必要があると思われる。

第 3 章　18 年度事業成果のとりまとめと今後の課題

１．18 年度事業成果とりまとめと今後の課題

１．１　委員会のまとめ

第１回

・平成 18 年度計画

・中国、韓国へ、NWIP５件のISOでの進捗状況報告

・ISOへの提案方法の検討

・新規提案テーマに関する国際調査事項の確認

第２回

・第５回東亜標準化協力セミナー報告

・今後の中日韓AD委員会テーマ調査

・アジア各国への情報提供に関しての検討

第３回

・コミュニケーション絵記号、点字表示・触知案内図、公共トイレおける操作系設備の標準化に関する国際調査報告

・マレーシア・タイ標準化機関との会合報告

１．２　18 年度事業のまとめ

平成 18 年度は,「アジアにおける高齢者・障害者標準化に関する国際規格共同委員会」を昨年度に引き続き国内に設置し，下記の作業を行なった。

平成 18 年度は,「アジアにおける高齢者・障害者標準化に関する国際規格共同委員会」は 4 年目を迎えた。昨年度に引き続き委員会を設置し，下記の作業を行なった。

１）第 5 回東北亜標準協力セミナー

平成 18 年 7 月 11 日、13 日にそれぞれ中国、韓国で開催された。ここでは、NWIP 作成までの経緯、申請の手続きについての説明を行った。

２）中日韓アクセシブルデデザイン委員会

平成 18 年 11 月 13 日、平成 19 年 2 月 12 日に、それぞれ中国、韓国で行われ、NWIP 提出に関する進捗状況を報告した。

３）ISO NWIP 提出

第２回中日韓アクセシブル[illegible]合意されたアクセシブルデザイン関連規格５種に関し，[illegible]提出した。

当初、TC159 内への新 SC 設[illegible]とはならなかった。そのため、TC159 SC4・SC5、TC122 [illegible]

４）アジア各国への説明

ISO へ申請した NWIPs について、賛成投票を依頼するとともに、積極的参加メンバー（P メンバー）として専門家の派遣要請を行うことを目的に，マレーシア，タイの２カ国の標準化作成機関の意見交換会を行った。

５）新規国際提案テーマの調査

本委員会では平成 17 年度に JIS 化された「コミュニケーション絵記号」及び「点字表示」に関し，国際的な規格があるか等の調査を行った。調査の結果、いずれも国際的な規格はなく，今後国際的な標準化が必要なテーマであること確認された。

６）委員会

国内に委員会を設置し，５つのテーマの NWIP の作成と提案，中国，韓国との調整への検討を行った。

１．３　今後の課題

（１）NWIP 承認後のサポート体制

平成 18 年度に中国・韓国・日本 3 国が合意した５テーマの NWIP を，ISO TC159 、TC122 に提案した。ISO での承認後は日本国内において、スムーズな規格審議が行われるようにしなければならない。そのため、会議への出席や会議開催のための事務局の運営、専門家へのサポート体制を構築する。

（２）中日韓アクセシブルデザインでの継続審議と AD の普及拡大

中日韓アクセシブルデザイン委員会に関しては，継続して効率よく審議するためのシステムを行い,テーマによっては 3 カ国以外も参加できるような仕組みを作る。また、日本はもとより、中国、韓国においても、AD の普及は十分とはいえない。この AD の普及・促進のため、それぞれの国において、消費者や企業を初めとして、自治体や学校、研究機関を対象にしたシンポジウムやフォーラムを開催する。

（３）国内における AD 関連規格作成テーマの抽出促進と迅速な JIS 化

国内においては，AD 関連の JIS が数多く作られるよう、障害者・高齢者の不便さを調査し、規格作成の必要性を把握する。さらに、障害者だけではなく、一般消費者や企業についても広く AD 関連 JIS に関する情報提供を行い､必要性の認識を高める。

（４）アジア諸国への AD 規格作成意義の普及

日本で作成された AD 関連 JIS の有用性や､経済や社会に与える意義をシンガポール、マレーシア、タイアジア諸国へ伝え理解を求める。

【資料編】

資料編１. New Work Item Proposal　marking tactile dots on consumer products

資料編２. New Work Item Proposal　Auditory signals on consumer products

資料編３. New Work Item Proposal　Auditory signals on consumer products- Sound pressure levels of signals for the elderly and in noisy conditions

資料編４.New Work Item Proposal　Visual signs and diplays- Specification of age -related relative luminance and its use in assessment of light-

資料編５.New Work Item Proposal　Packaging and receptacles

資料編６.ANNEX

資料編７.国際調査　コミュニケーション支援絵記号に関する報告書

資料編８.国際調査　点字表示、触知案内図に関する報告書

資料編９.国際調査　トイレの操作系設備に関する報告書

この調査研究は、株式会社三菱総合研究所からの再委託で実施したものの成果である。

本件についてのお問い合わせ先

平成18年度　経済産業省委託

国際規格共同開発調査

アジアにおける高齢者・障害者配慮

標準化に関する国際規格共同開発事業

成果報告書

〒101-0064　東京都千代田区猿楽町２の５の４　ＯＧＡビル２階

電話　０３（５２８０）００２０

ＦＡＸ　０３（５２８０）２３７３

財団法人　共用品推進機構

専務理事　星川安之